

ライフプランを内容とした確定拠出年金の継続投資教育は加入者の資産配分や老後に対する意識に影響を与えるか？

北村智紀（ニッセイ基礎研究所）
中嶋邦夫（ニッセイ基礎研究所）

本研究は、実際の確定拠出年金（DC）の加入者を対象に、生活の準備のためのライフプランを内容とした継続投資教育セミナーが、DC加入者の資産運用や老後の準備に対して、どのような影響があるのかについて検証を行った。

セミナーの内容は、(1)国の年金制度と会社の退職給付制度の概要、(2)予測される年金給付額、(3)老後に予測される生活費と加入者自身で用意する必要がある貯蓄額、(4)ドルコスト法を利用した銀行預金と株式投資の予測累積投資額とその変動リスク、(5)株式投資の仕組みと魅力及び株式投資が嫌いな人の対処方法等である。

セミナーの参加者と不参加者で、資産配分や老後に対する意識に違いがあるか、アンケート調査を利用して比較した。その結果、継続投資教育セミナーに参加した者は、DC及び金融資産全体における今後の株式配分を高めたいとするほか、将来の公的年金の受給額や老後に向けた資金の準備が気になる傾向が観察された。しかし、実際にDCの残高を確認するなどの現実の行動には至らなかった。